

集落活性化県民討論会 福大Cプロジェクト & 飯舘村佐須



飯舘村の避難現状

飯舘村 人口6177人

避難者数 6164人

約1700世帯

→2697世帯

県内 5514人

福島市 3687人

伊達市 622人

川俣町 491人

相馬・南相馬 645人

県外 530人

その他 178人

県内

5514人 2283世帯

県外

530人 288世帯

外国 14人 12世帯

村内 13人 8世帯

飯舘ホーム 106人 106世帯

佐須地区の避難状況

高齢化率	29.8%	避難先	
人口	260人	福島市	105人 45世帯
世帯数	66 → 117	伊達市	106人 44世帯
		その他県内	17人 15世帯
県借り上げ・自主避難世帯		県外	21人 12世帯
199人	86世帯		

佐須地区の課題

世帯数が増え、家族がバラバラに
県借り上げ世帯、自主避難世帯に避難情報や支援にバラつきがある
高齢者の健康障害、生活障害（認知症、鬱病）
→辛い避難生活だが、皆で元気に村に帰れるように乗り越えていきたい。皆で集まる機会をつくりながら情報個交換や楽しみをつくっていくことが課題

Cプロの活動記録一覧

- 4・5月 計画的避難に関するボランティア活動
- 5/6 福島大学入学式にて募金及び物産販売
- 6月～ 避難状況聞き取り・活動計画検討
- 10/2 佐須主催集会イベントに参加
- 10/29・30 福大祭つながりプログラム実施
- 11/19 銀座文祥堂で飯舘村『佐須虎捕太鼓』上演 同行
- 11/20 築地本願寺で飯舘村『佐須虎捕太鼓』上演 同行
- 12月 つながり年賀状作成
- 1/29 佐須元気集会参加

地域の実情を知ることが活動の第一歩。
何かしらできることをお手伝いする
という心構えから

佐須集会イベントの参加

10/2 佐須主催集会イベント

11/29・30 『佐須虎捕太鼓』上演（銀座文祥堂 築地本願寺）

1/29 佐須元気集会

佐須集会の開催

- 避難後の地域コミュニティの維持
- 避難に伴う高齢者の生活習慣病対策機能
- 再開の場、情報交流の場としての集会。
- 避難により一時解散した「佐須虎捕太鼓」の復活
「こんな時だからこそ伝統芸能が地域の人々に力を与えてくれる。」全国各地で飯館の状況を太鼓の響きと共に伝えている。

課題

- 若い世代も含めた交流（仕事、育児、若者世代の企画）
- 真剣に今後の集落や村の存続について意見交換したいという要望。
- 太鼓は全国からオファーがあるが避難生活と生計、子育てと過労が続いている状態。依頼を断ることもしばしば。

築地本願寺にて飯館の現状を都民に語る



福大祭つながりプログラム

目的

- ・若い子育て世代の方々の交流を促す
- ・避難する方々の再会・交流・情報発信の場として
- ・震災について考え現状と向き合う場（学生を含め）

つながり

飯舘村自家焙煎コーヒー店「極久里」

多様な福島大学生グループ・みちのくボンガーズ（パチッコリン）との連携企画

- ぐちカフェ
- 足湯
- キッズスペース
- 書道展覽サロン
- 被災地へのメッセージ
- Uプロジェクト
- 侍として（どーなつを）考える

自家焙煎コーヒー店極久里にて講習中



福大祭つながりプログラム

- **参加者**

極久里ファン（中年層、若いカップル）

飯舘村民（松川の仮設から男性複数人）

福大卒業生

他の学生団体にかかわる地域の方々

浪江、相馬、南相馬、松川、福島、郡山

- **交流・会話**

日常生活と震災後の生活の話し

情報の格差と信用性

私たちの生活を見直すきっかけ、気づきに

CプロジェクトのKPT

- **Keep（今後続けるべき良い点）**

学生の中でも多くの団体個人が、何かできることはないかと活動をしている。それぞれができることを考え、皆で持ち寄ることで新しい取り組みができた。

- **Problem（改善が必要な問題）**

情報収集と情報発信が課題。何が求められているのか、それに自分達がどう答えられるのか。

→多くの人たちと考えること（多様な視点と手法の必要性）

- **Try（福島復興に向けて）**

今ある問題を様々な立場の人とシェアする。置き換える。

自立・自律・事律（造語）

実行力（顔の見える支援）

ご清聴ありがとうございました。

